

■はじめに ～「奈良市民意識調査」から～

校園長の皆さん、こんにちは。

はじめに、今年の1月末から2月にかけて行われた「奈良市民意識調査」の結果から話します。この調査は、魅力あるまちづくりをしていくために、奈良市民3000人を無作為に抽出して行われたもので、奈良市のホームページにも掲載されています。



この表は、「学校教育の充実」と「文化財の豊かさ」の重要度の結果です。「学校教育の充実」の項目を見ますと、「とても重要」と「やや重要」とを合わせて73%、約4人に3人は重要な内容だと答えています。これは、「文化財の豊かさ」の重要度とほぼ同じ割合になっています。市民の皆さんが、学校教育の重要性を強く認識していることがよくわかります。

【重要度】

	とても重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり 重要でない	重要でない	無回答
学校教育 の充実	50.6%	22.4%	14.1%	0.7%	0.4%	11.7%
文化財の 豊かさ	41.0%	30.2%	14.9%	2.6%	1.3%	9.9%

【満足度】

	とても満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答
学校教育 の充実	3.0%	20.8%	53.2%	12.7%	4.4%	6.0%
文化財の 豊かさ	39.4%	37.0%	18.3%	2.5%	0.8%	2.0%

では、学校教育に対する満足度はどうでしょうか。「とても満足」と「やや満足」を合わせても、23.8%、一方、「どちらともいえない」は53.2%と半数をこえる結果となりました。「文化財の豊かさ」の満足度と比較すると、その違いがよくわかります。この「学校教育の充実」の満足度を、「文化財の豊かさ」同様に高めていくためには、まず、皆さんの学校園の教育をさらに充実させていくことが必要です。例えば、何も議論されずに「例年通り」の教育では、学校教育に対する評価は変わらないでしょう。議論を重ねた取組を行うことで、教育は充実していくのです。そのために、次の3点について学校ビジョンの見直しを行ってください。

- ① 本当に子どもたちの実態に即しているのか
- ② 目指す目標が、具体的で、分かりやすく示されているか
- ③ 実態から目標に向かう手順が、示されているか

この3点を意識して学校ビジョンを見直し、教員一人一人がしっかりとそれを理解し共有して教育活動を進めてください。そして、地域の皆さんや保護者の皆さんにもわかりやすい学校ビジョンを作成し、発信してください。

■キャリア教育の必要性

今年、奈良市教育目標の中に、キャリア教育をひとつの柱として据えました。10年ほど前からキャリア教育という言葉を目にするようになり、昨年1月には、中央教育審議会から、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」という答申も出されました。

就職した若者が3年以内にやめてしまう割合は、中卒で7割、高卒で5割、大卒でも3割もいるというのです。今では、それが8割・6割・4割に増えているとも言われます。また、学校現場においても、夢がもてず未来に見通しをもてない子ども、社会とのつながりや人とのかかわりを避ける子ども、自分で考え、自ら行動していきることができない子どもが増えています。このような実態があるからこそ、学校教育の中でキャリア教育を充実させることが必要なのです。

そのためには、子どもたちに実感や感動を伴った、本物の体験をさせることが大切です。教室の中で学んだことを、実際に試す機会や、新しいことにチャレンジする場など、本物に触れる機会をたくさん作る必要があります。本市では、地域との関わりを密にした学校づくりが進み、「地域で決める学校予算」事業は、今年で3年目を迎えました。地域には、様々な職種に就いて活躍しておられる方がいます。子どもたちを本気で育む気持ちをもった大人がいます。学校と地域がしっかりとつながりあって、共に子どもを育てる体制をつくってください。

キャリア教育とは、「夢をもち、将来に見通しをもって生きていく子どもを育て、社会に出て、世の中に役立つ子どもにするため」に行うのです。キャリア教育を、奈良市の教育の大きな柱のひとつに位置付けて取り組んでください。

■おわりに ～世界遺産学習「菜の花プロジェクト」～

おわりに、奈良国立博物館学芸部長の西山厚先生から大変うれしい話をお聞きしましたので、皆さんに紹介します。奈良国立博物館、京都国立博物館、東京国立博物館、九州国立博物館の4館に対する外部評価委員会が先日開かれたそうです。その場で、奈良市の世界遺産学習が話題になり、その委員長が、次のようなお話をされました。

「今の日本は、少しおかしな方向に進んでいるような気がする。その方向を軌道修正していくには、まず、子どもたちに日本の文化をしっかりと伝えていく必要がある。奈良市では、それを、幼稚園の子どもたちから行っている。

そのことが驚きであり感動した。」

このように、六条幼稚園や鼓阪北幼稚園・鼓阪北小学校での「菜の花プロジェクト」の取組を絶賛して下さったのです。それぞれの博物館も、「教育」の分野に力を入れ始めていますが、奈良市のように、幼稚園とのつながりの中で行っているところはないそうです。世界遺産学習を奈良らしい教育の中核と位置付け取り組んでいますが、

思いがけないところで大変高い評価を受けたことを知り、驚くとともに大変誇らしげな気持ちになりました。世界遺産学習の取組が、学会の方々にも評価されていることを、是非現場の先生方に伝え、これからの励みにしてください。よろしくお願いします。



